

●農具作り

○印旛沼PAN

76 再び、北総台地に農作業の季節がやってきました。

○畑を耕す桜井さん

77 畑を耕しているのは、桜井仙作さんです。

○鍬のアップ

78 桜井さんは、今年、新しい鍬を買いました。

○耕すロング

79 というのも、40年間愛用してきた鍬が寿命を迎えたからです。

○村山さんの作業ロング

80 桜井さんが新しく買った鍬を作ったのは、

○村山さんのアップ

この人、村山康夫さん。父親の技を受け継ぎ、60年前から、農具を作ってきました。桜井さんが、以前に愛用していた鍬も、村山さんがつくったものでした。

○桜井さんインタビュー

桜井さん「いろんな人のやつを使ったんですが、ここの村山鉄工所さんのが一番使いやすいですね」
丹尾「どういうところが」
桜井さん「やっぱり、鍬にもいろいろありましてね、村山さんののは、このところ、これがカブっていうんだそうです、ここの作りが一番しっかりしてるんです」

○農具の数々PAN

○農具の数々ロング

●エンド

○成田国際空港出発ロビー

○幕張新都心PD

○千倉町海岸ZB

○菜の花畑の坂本さん夫婦

○落花生種まき

○印旛沼の水面とボート

○印旛沼の夕景ロング

81 村山さんが作った農具の数々。

82 ここには、
農家にとって欠かせない
鍬や万能まんのうなど農具を作る名人が、
今なお健在です。

83 首都圏に位置し都市化が年々進む
千葉県。

84 一方、南房総の海岸には、
ひと足早い春を届けようと
花づくりに励む人々がいます。

85 また、北総台地には、
特産物の落花生畑で黙々と
農作業に精を出す人々の姿が
あります。

86 こうした人々の手で
大都市の食を支える千葉県の農業と、
そして農村文化が、
今なお脈々と守り、受け継がれて
いるのです。